

「研修会等名称」

平成 17 年度リメディアル教育セミナー
大学における学力低下問題と IT を活用したリメディアル教育及び著作権問題
場所：千歳科学技術大学
期間：平成 17 年 7 月 16 日～17 日

1. 研修の内容

平成 17 年 7 月 16 日と 17 日、メディア教育開発センター(独立行政法人)が主催した「平成 17 年度リメディアル教育セミナー」を参加させていただきました。

セミナーは、「大学における学力低下」、「IT を活用したメディア教育」、「e-learning システム」と「著作権」、4 つのキーワードをめぐって 7 名の講師が次のような講演を行いました。

「新入生の基礎学力の低下と対応策」(プレースメントテストとリメディアル教育) 小野 博 (NIME)

「初年次教育と教員 FD」 林部 英雄 (横浜国立大学教育人間科学部)

「国内・海外大学における e-learning の実際」 中原 淳 (東京大学)

「日本語・学習リテラシー教育」 塚本 慎也 (岡山大学)

「英語初年度次育」 杉森 直樹 (立命館大学)

「数理系初年次教育」 小松川 浩 (千歳科学技術大学)

「e-learning と著作権」 児玉 晴男 (NIME)

ゼミナル後、特色 G P 推進代表者、千歳科学技術大学の小松川先生の実験室に訪問し、e-learning 開発に関わっている高校の教員や大学生たちと懇談し、高大連携で入学前教育における e-learning システム開発、導入と運営の実態を調査しました。特に、e-learning システムの開発に当たって、学生が主体となる開発体制や運営管理について考察しました。

今回の研修は、経済学部の入学前における e-learning システムの開発に向け、多くのアドバイスをいただきまして、大変いい参考になったと思います。

2. 研修の成果

学内COLプロジェクトとして、経済学部は推薦入試合格者向けの入学前e-learningシステムの構築を計画してきました。システムの構想を練る段階に、今回の研修、特に千歳科学技術大学の小松川先生の実験室の訪問機会をいただきまして、大きな収穫がありました。小松川研究室の経験を、以下の3点にまとめてみます。

(1) 高大連携の運営組織

リメディアル教育では、当然高校の履修内容に、一部は中学校の内容まで遡る必要があります。そのため、大学と高校の間にリメディアル教育のための協定を結びされ、高校・大学双方の科目担当者が中心に、中学校1年次から、高校3年次まで、さらに大学初年次も含めた数学、物理と英語、3科目学習内容を検討し、e-learningシステムのコンテンツ体系を確立しました。

(2) 大学生を動員した開発・支援体制

e-learningシステムの開発・運営管理は、「学生参加型」の形で進められていました。「キャリアアップ」プログラムとして、2年次生を中心にメンバーを募集します。単位や報酬などではなく（実際に単位も報酬も与えず）キャリアアップのための技能を求めて集まってきた学生たちは、意欲てきに活動に取り込んでいました。

2年生メンバーの教育は3年生が担当します。大学は10名程度の3年生を雇い、彼は「リーダー」役として、2年生の教育と実際の開発業務を担当しています。

3年生をまとめるのは4年生と大学院生です。彼らの直接に教員の助手として、プロジェクト管理と実験室の運営にかかわります。

この「学生参加型」の開発体制は、学生諸君の能力を最大限に生かせ、人材育成とシステム開発、両立された体制といえます。

(3) 産官学連携の推進

開発したシステムは、業者によってシステムの標準化作業が進んでいます。また、システムの拡充、カスタマイズと他大学への導入サポートなどの業務も業者が担当し、進められています。

現在、千歳教育委員会を通じて、地元の多くの中学校と高校がe-learningプロジェクトに参加し、広範囲に利用されています。

3. 授業への研修成果の反映状況

今年度から、経済学部は実験的に千歳科学技術大学のe-learningシステムを利用することが決めました。学部の入学前教育の一環として、第1段階は該システムの数学と英語のコンテンツを導入します。その実験結果を踏まえ、独自のサーバーの導入や独自のコンテンツの開発などを、あらためて検討します。

学部長	FD委員長	FD委員会	総合企画課長	係